

仙台稲作情報 2025 (第5号)

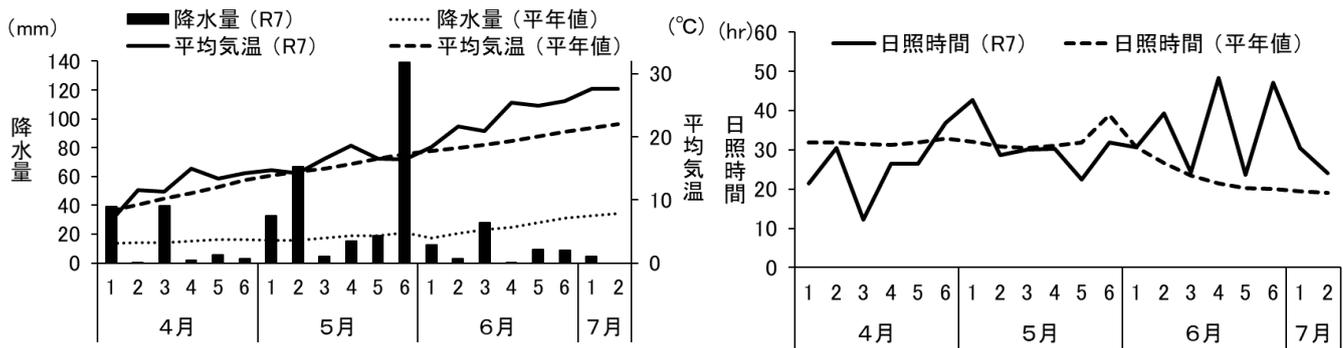
宮城県仙台農業改良普及センター TEL:022-275-8410 FAX:022-275-0296

http://www.pref.miyagi.jp/sd-nokai E-mail:sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

栽培管理のポイント

- ▷追肥は稲の葉色や生育ステージを確認して適切に実施しましょう。
- ▷前年紋枯病が多発したほ場では、防除を実施しましょう。
- ▷斑点米の発生防止のため、水田周辺の草刈りを適期に実施しましょう。

1 気象経過



- ・6月は気温が平年よりかなり高く推移し、月平均気温の高い値の1位を更新しました。
- ・降水量は、概ね平年より少なく推移し、月間日照時間はかなり多くなりました。

2 管内の生育状況（7月10日の調査結果）

(1) 移植栽培（ひとめぼれ）

- ・草丈は69.9cmで概ね平年並、茎数は404本/m²で平年よりやや少ない状況です。葉色（GM値）は34.1で、幼穂形成期の目安（38~40）より淡くなっています。
- ・幼穂長は1.7mmとなっており、幼穂形成期に入りました。

表1 7月10日の調査結果

| 品種 | 地帯 | 場所 | 田植日 | 草丈 (cm) | | | 茎数 (本/m ²) | | | 葉色値 (GM値) | | | 幼穂長 (mm) | | |
|---------|-------|---------|------|---------|---------|---------|------------------------|---------|---------|-----------|------|------|----------|------|------|
| | | | | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年差 | 平年差 | 本年 | 前年差 | 平年差 |
| ひとめぼれ | 仙台湾沿岸 | 仙台市宮城野区 | 5/22 | 65.9 | 104 | 105 | 367 | 100 | 102 | 35.9 | -3.2 | -1.6 | 0.9 | +0.1 | -0.5 |
| | 北部平坦 | 大郷町鷓崎 | 5/18 | 70.6 | 102 | 105 | 440 | 80 | 81 | 29.9 | -5.7 | -5.9 | 0.4 | -1.0 | -1.4 |
| | 西部丘陵 | 仙台市泉区 | 5/11 | 73.1 | - | - | 406 | - | - | 36.4 | - | - | 3.7 | - | - |
| | 管内平均 | | | 69.9 | 106 | 108 | 404 | 88 | 90 | 34.1 | -3.3 | -2.6 | 1.7 | +0.5 | +0.1 |
| ササニシキ | 仙台湾沿岸 | 仙台市若林区 | 5/13 | 73.4 | 112 | 110 | 398 | 78 | 78 | 33.5 | -5.7 | -4.7 | 6.8 | +4.5 | +4.4 |
| にじのきらめき | 北部平坦 | 大郷町土橋 | 5/22 | 69.5 | - | - | 384 | - | - | 36.0 | - | - | 0.3 | - | - |

※平年比の計算は、直近3か年の平均値を使用。仙台市泉区ひとめぼれ、大郷町土橋にじのきらめきは、今年から調査しているため平年値なし。

表2 品種別生育調査結果（県内32地点）

| 品種 | 草丈 (cm) | | | 茎数 (本/m ²) | | | 葉色値 (GM値) | | |
|-------|---------|---------|---------|------------------------|---------|---------|-----------|------|------|
| | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年差 | 平年差 |
| ひとめぼれ | 69.5 | 105 | 107 | 473 | 93 | 92 | 36.6 | -3.1 | -3.6 |
| ササニシキ | 67.1 | 104 | 107 | 473 | 85 | 79 | 34.2 | -5.0 | -4.8 |
| つや姫 | 71.4 | 111 | 113 | 435 | 93 | 87 | 37.6 | -1.7 | -4.3 |

※ひとめぼれ18地点、ササニシキ6地点、つや姫8地点、古川農業試験場、仙台の地点含む

(2) 乾田直播栽培

慣行ササニシキの草丈は49.2cm、莖数は377本/m²、葉色は27.4でした。県認証基準ササニシキは、草丈59.9cm、莖数は532本/m²、葉色は30.8でした。幼穂長はそれぞれ0.8cm、0.3cmとなっており、間もなく幼穂形成期に入ります。

表3 7月10日の調査結果

| 品種 | 地帯 | 場所 | 播種日 | 苗立数 (本/m ²) | 草丈 (cm) | | | 莖数 (本/m ²) | | | 葉色値 (GM値) | | | 幼穂長 (mm) | | |
|------------------|-------|--------|------|----------------------------|---------|------------|------------|------------------------|------------|------------|-----------|------|------|----------|------|------|
| | | | | | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 本年 | 前年差 | 平年差 | 本年 | 前年差 | 平年差 |
| ササニシキ (慣行) | 仙台湾沿岸 | 仙台市若林区 | 4/25 | 210.0 | 49.2 | 79 | 78 | 377 | 91 | 68 | 27.4 | -6.1 | -8.8 | 0.8 | -1.7 | -0.5 |
| ササニシキ (県認証基準) | 仙台湾沿岸 | 仙台市若林区 | 4/25 | 170.7 | 59.9 | - | - | 532 | - | - | 30.8 | - | - | 0.3 | - | - |

3 生育ステージの予測 (古川農業試験場、7月7日現在)

地域区分別の生育ステージの予測は以下のとおりです

表4 地帯区分別の生育ステージの予測

| 地帯区分 | 田植盛期 | 幼穂形成期 | 減数分裂期 | 出穂期 |
|-------|------|-------|-------|------|
| 北部平坦 | 5/12 | 7/5 | 7/15 | 7/30 |
| 南部平坦 | 5/13 | 7/5 | 7/15 | 7/29 |
| 仙台湾沿岸 | 5/11 | 7/5 | 7/15 | 7/29 |
| 西部丘陵 | 5/13 | 7/7 | 7/17 | 8/1 |
| 山間高冷 | 5/16 | 7/11 | 7/21 | 8/7 |

注1) 生育予測に用いるデータ ①日別平均気温(アメダス)、②移植時期、③移植時の葉数(県平均値2.9葉)

注2) 7月1日まで各アメダス地点メッシュ農業気象データ実況値を使用、その後26日間は予報値を使用

注3) 「減数分裂期」は幼穂形成期予測から10日後

注4) 対象品種「ひとめぼれ」

表5 生育ステージの目安

| 生育ステージ | 幼穂長 | 葉耳間長 | 出穂前日数 |
|--------|----------|---------|--------|
| 幼穂形成期 | 1~2mm | - | 25~20日 |
| 減数分裂期 | 30~120mm | -10~0cm | 15~10日 |

4 本田管理

○高温の影響と対策【出穂期まで】

- 登熟初期の高温は、白未熟粒等の品質低下につながります。
→ 籾数が過多、もしくは穂揃期葉色が低いと登熟初期の高温の影響を受けやすい傾向があります。葉色等を確認し、ほ場毎の地力に応じた施肥管理、適期追肥を行いましょう。
- 高温は、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生を助長させます。
→ 紋枯病は、前年に多発したほ場では穂揃期に茎葉散布剤で防除を行いましょう。斑点米カメムシ類は、穂揃期とその7~10日後の2回防除が基本です。
- 出穂期前後は、稲体が最も水を必要とするため、間断かん水~飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましよう。

(1) 水管理

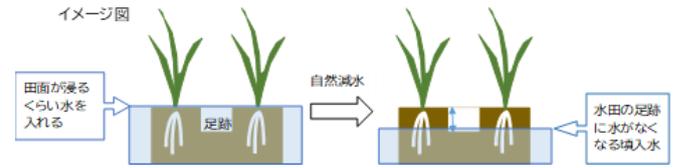
- ひとめぼれとササニシキは幼穂形成期に入りました。他品種や乾田直播ほ場でも近日中に幼穂形成期に入ると推測されます。出穂期までは飽水管理などを行い、土壌を酸化的に保ち根の活力を維持しましよう。

- ・幼穂形成期から減数分裂期に、日平均気温 20℃以下が長期間続く場合や最低気温 17℃以下の場合は障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、その際は深水管理を実施しましょう。

※幼穂形成期：水深 5～10cm、減数分裂期：水深 20cm が望ましい

○飽水管理の方法

- 1 水尻を閉め、畦畔から漏水がないか確認する。
- 2 田面が浸るくらい（ひたひた）に水を入れる。
- 3 水を止めたら水尻を閉めたまま自然落水する。
- 4 水田の足跡に水がなくなる頃、又は番水のタイミングで次の水を入れる。（目安は3～5日おき）



(2) 追肥

- ・葉色が低下しているほ場が散見されます。穂揃期に葉色が低下していると、高温による品質低下の影響を受けやすくなります。適切な追肥を行い葉色維持に努めましょう。（表6、表7）
- ・ほ場により生育が異なるので、幼穂長を測定し生育ステージを確認しましょう。（表5）
- ・基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、倒伏が懸念されるため原則として追肥は行いません。しかし、高温下では窒素肥効の消耗が激しく、緩効性肥料を施用した場合でも幼穂形成期頃から葉色が低下するほ場がみられるため、葉色が著しく低下している場合は追肥を検討しましょう。
- ・「だて正夢」は、葉色が濃い品種です。周辺ほ場に比べ色が濃くなり、追肥を抑えがちですが、穂揃期の葉色を維持し、登熟の向上を図るため、適正な追肥を実施しましょう。
- ・「金のいぶき」の葉色は幼穂形成期頃から「ひとめぼれ」より淡く推移します。急な葉色の低下に注意し、登熟向上のために表6の目安を参考に2回の追肥を基本として実施しましょう。

表6 生育ステージにおける葉色と追肥の目安 ※葉緑素計（GM 値）

| 品 種 | 幼穂形成期（幼穂長 1～2 mm） 出穂 25～20 日前 | | 減数分裂期（幼穂長 30～120mm） 出穂 15～10 日前 | |
|--------------|----------------------------------|-----------------------|------------------------------------|--------------------------------------|
| | 葉色 | 施用量 (N 成分/10a) | 葉色 | 施用量 (N 成分/10a) |
| ひとめぼれ | 38～40 | 1.0kg | 35～37 | 1.0 kg |
| ササニシキ | 34～36 | - | 32～34 | 1.0～1.5 kg |
| だて正夢 | 40～42 | (茎数が少ない場合は 1.0 kg) | 37～39 | 2.0 kg (幼穂形成期に追肥した 場合は 1.0 kg) |
| 金のいぶき | 33～35 | 1.0 kg | 30～32 | 1.0 kg |
| つや姫 まなむすめ | 35～37 | 2.0 kg | つや姫 31～33 まなむすめ 36～38 | - |

表7 追肥の主な効果・影響

| | | 穂数の増加 | 1穂穎花数の増加 | 1穂穎花数の減少防止 | 登熟の良化 | 下位節間の伸長と倒伏 | 玄米タンパク質の増加 |
|------|-------|-------|----------|------------|-------|------------|------------|
| 施用時期 | 幼穂形成期 | ○ | ◎ | ○ | | × | |
| | 減数分裂期 | | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 穂揃期 | | | | ○ | | × |

(3) 病害虫防除

イ いもち病

- ・7月2日発表の病害虫防除所の発生予報（以下、発生予報）では、平年並の予想です。
- ・上位葉での葉いもちの発生は、穂いもちの重要な伝染源になります。ほ場をよく観察し、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。
- ・追肥後は一時的に稲体窒素濃度が高くなり、いもち病に対する抵抗力が弱くなるので発生に注意しましょう。
- ・穂いもちの予防粒剤は、出穂 30～5 日前に使用する剤が多いので、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき適期に散布しましょう。
- ・BLASTAM（ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、病害虫防除所のサイトをご覧ください。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

ロ 紋枯病

- ・発生予報では、平年よりやや多い予想です。
- ・高温で降雨日数が多いと株間の湿度が高まり、幼穂形成期頃から発生が目立つようになります。
- ・**前年に発生が多かったほ場では多発のおそれがあります。穂ばらみ期の水面施用剤、穂ばらみ期～出穂期頃の茎葉散布剤で防除しましょう。**
- ・病斑は水際の葉鞘に現れるので、茎葉散布剤による防除では、株元に薬剤（液剤、水和剤、粉剤）がよく付着するよう十分な薬量で散布しましょう。
- ・要防除水準は、稲作情報第4号（7月3日発行）を参照してください。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/6313/r7inasakuno4.pdf>

ハ 斑点米カメムシ類

- ・発生予報では、発生量は平年よりやや多く、発生時期は平年よりやや早い予想です。
- ・水田周辺の雑草地や法面等では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、7月中旬までに草刈りを行いましょう。
- ・**水稲の出穂前後の畦畔の草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、水稲が出穂する 10 日前までに行います。出穂期の予測を参考に作業の計画を立てましょう。**

ニ 乾田直播の病害虫対策

基本的には移植栽培と同じ管理となりますが、以下の病虫害の発生に注意しましょう。

(イ) いもち病

直播栽培は、移植栽培より生育ステージが遅く、感染のタイミングが遅れる傾向があります。ほ場を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。

(ロ) イネツトムシ

通常は8月上旬頃から加害が始まります。特に葉色が濃い部分に産卵されることが多く、直播栽培で問題となることがありますので発生に注意し、防除が遅れないようにしましょう。

5 東北地方の向こう 1 か月の天候の見通し（7/10 仙台管区气象台発表）

予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込みです。
- 高温に関する早期天候情報が発表されており、16 日頃から気温がかなり高くなる見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう 1 か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

◇熱中症に気を付けて安全な農作業を心がけましょう！

- ・暑さを避ける…高温時の作業は極力避けましょう
- ・こまめな休憩と水分補給…水分補給は喉の渇きを感じる前に
- ・単独作業は避ける…複数名で作業を行い、連絡を取り合しましょう
- ・熱中症対策アイテムの活用…帽子や吸湿速乾性の衣服、空調服などを活用しましょう

■宮城県農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）

宮城県では、6 月から 8 月にかけて農薬危害防止運動を実施しています。この時期は農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

次回の稲作情報第 6 号は、7 月 18 日に実施する生育調査の結果をもとに 7 月 22 日頃の発行となります。